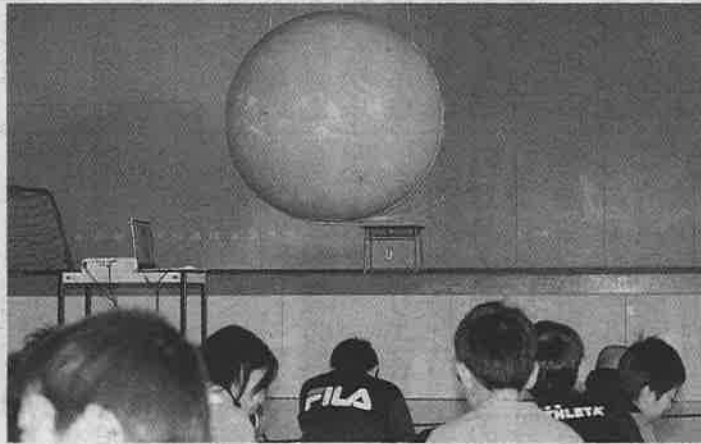


2017年(平成29年)11月7日(火曜日)

# 球体スクリーンで授業

## 下音更小 月の満ち欠け分かりやすく



【音更】下音更小学校(岩館佳弘校長、児童264人)で1日、地球や惑星を球体のスクリーンに立体的に映し出す「ダジックアース」を使った理科授業が行われ

た。6年生(36人)の単元「月と太陽」で、二ノ宮民子教諭が指導。子どもたちは直径2分の球体スクリーンに投影された月の満ち欠けの

球体スクリーンに投影された地球を観察する子どもたち

様子を確認した。プロジェクターの光(太陽)とバレーボール(月)、自分(地球)に見立てて月の満ち欠けの様子を観察。ワークシートに結果をまとめて発表した。井上陽貴(はるき)君(11)は「ダジックアースで月の見え方や惑星の見え方がよく分かった」と話していた。

管内の小学校教諭5人、同アースの開発に携わっている京都大学大学院の齊藤昭則准教授、同アースの展開を推進しているNPO教育支援協会北海道(本部帯広)の白石友柄専務理事と内山晶子事務局長が授業を

参観。齊藤准教授は「小学生にも分かるように内容を検討したい」、白石専務理事は「宇宙への関心が高まっている十勝の子どもたちの学びに貢献できれば」と話した。(村西信一通信員)